

平成16年度宮古群島病害虫発生予報第5号（8月予報）

8月の気象予報

要素別予報

要素	気 温	降 水 量	日照時間
予 報	並～高	並	並

(平成16年7月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地域平均の要素別「平年並」の範囲

要素	気 温 ()	降水量 (mm)	日照時間 (h)
宮古群島	28.0～28.4	130.1～262.4	213.8～245.6

(平成16年7月23日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

8月の発生予報 および防除上の注意事項

向こう1ヶ月間に農作物の主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

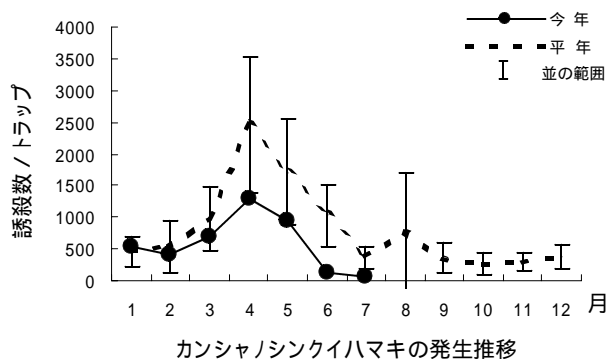
宮古群島

1 さとうきび

(1) メイチユウ類

発生程度 : やや少
予報の根拠

7月のカンシャノシンクイハマキ性フェロモンによるトラップ当たりの誘殺虫数は50.0頭（前年199頭、平年372頭）と平年よりやや少なかった。



防除上注意すべき事項

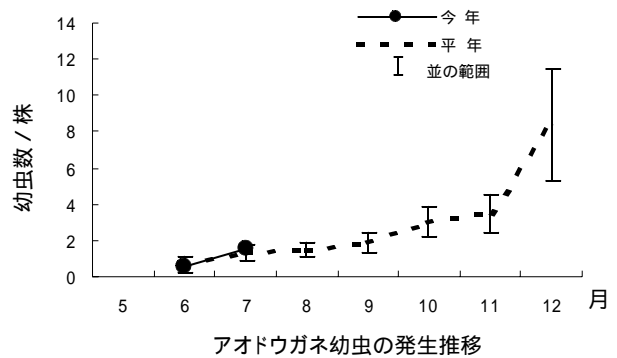
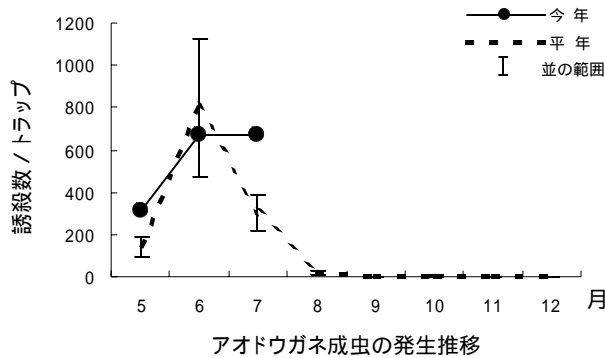
- a 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除に重点を置く。
- b 夏植の苗植付時には、土壌害虫の防除を兼ねた薬剤を選定し施用する。

(2) アオドウガネ

発生程度 : やや多

予報の根拠

- a 7月の予察灯への成虫誘殺数は672頭(前年388頭、平年305頭)と平年より多かった。
- b 7月の幼虫掘取り調査の結果、株あたり虫数は1.5頭(前年0.4頭、平年1.3頭)と平年並みであった。



防除上注意すべき事項

6月中旬～8月上旬は幼虫の防除適期(1～2齢期)にあたるので、被害の多い地域では防除適期を逸しないようにすること。

2 マンゴー

収穫後期の病害虫防除対策について

- a 収穫をほぼ終えた初期栄養成長期にあたるこの時期の園では、軸腐れ病や炭疽病、さらに新葉を中心にチャノキイロアザミウマ等の病害虫が多く発生する。これらの病害虫の発生動向に注意し、残渣物などは速やかに除去するとともに、収穫を終えた施設では早期防除を実施する。
- b 特に本年は少雨高温傾向のため、ハダニ類の密度が高い傾向にある。7月の巡回調査におけるハダニ類の葉あたり頭数は3.3頭(先月0.4頭/葉)であった。
- c ハダニ類は高温乾燥下で増加しやすいので、施設内が乾燥しないように管理する。8月の気象予報では、気温は平年並みか高く、降水量は平年並みの見込み。
- d ハダニ類は薬剤抵抗性が出現しやすいので、同一・同系統薬剤の連用を避ける。